



木 木 木

千葉県TEACCHプログラム研究会
2024年5月12日(日)第126号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部
事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557
ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

アフターコロナの時代に向けて

千葉県TEACCHプログラム研究会
代表 山中 暢蔵

今年度、千葉県TEACCHプログラム研究会の代表を務めます山中暢蔵でございます。当会の設立当初は会員、平成20年度より運営委員として携わってまいりました。今年度、代表という大役に大変恐縮しておりますが、設立から23年目の千葉県TEACCHプログラム研究会が、会員の皆様方からの御協力をいただきながら、30年、40年と続けていけるよう、微力ですが尽力する所存です。よろしくお願い申し上げます。

石川県能登半島地震、羽田空港での飛行機衝突事故という大きなニュースで幕を開けた令和6年、関係する皆様方におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。千葉県においては、2月下旬からスロースリップ現象による地震が続いており、心配されるところです。自閉症のある方にとって、予期せぬ地震、見通しのもてない地震は、より恐怖に感じているのではないかと、3.11東日本大震災を思い起こされている方も少なくないのではないかと推察しております。いかに、何気ない穏やかな毎日の繰り返しがありがたいことなのか、と痛感するこの頃です。

新型コロナウイルス感染症は3年間の自粛生活を経て、令和5年5月8日に5類に移行となり、少しずつコロナ禍前の社会生活、学校生活に戻りつつありますが、まさに、「予測困難な時代」「未知の状況」である今、文部科学省は、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～のもと、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要だと示しました。自閉症のあるお子さんも、自身の可能性を信じ、周りの人と協働し、豊かな人生を送る、社会の作り手となる世の中の実現を信じてやみません。

昨年度、千葉県TEACCHプログラム研究会では、連続セミナーを6回、実践セミナーを1回開催し、のべ750名を超える県内外の皆様方に受講いただきました。今年度も昨年度同様、集合型の対面研修を開催するとともに、セミナー当日御都合が悪い方や遠方の方への期間限定配信によるオンデマンド動画研修のハイブリッドでセミナーを運営してまいります。「自閉症のある人に幸せな人生を送ってほしい」「自閉症のある人と笑い合いたい、気持ちを共有したい」「自閉症のある人に適切な支援をしたい」ほか、自閉症のある人がありのままの自分でいられる世界を願っている皆様、是非、一緒に勉強していきましょう。以前、佐々木正美先生がおっしゃっていた、「無理解で熱心な支援者」が一人でも減ることを切に願いながら、今年度も、医療、学校、保護者や家族、事業所関係など、様々な角度から自閉症のある人への支援について、お話を伺えるよう計画しております。皆様の御参加、お待ち申し上げます。

さて、今年度も昨年度に引き続き、この県教育会館大ホールにおいて総会及び第1回連続セミナーを開催できますこと、千葉県の福祉関係の皆様方や教育関係の皆様方からの多大なる御支援御協力、そして会員の皆様方の御理解御協力の賜であると深く感謝申し上げます。今後とも、お力添えを頂戴したくお願い申し上げます。

結びに、自閉症のある人もない人も、ともに支え合い、寄り添いながら、一つでも笑顔の多い日々的一年でありますよう祈念しまして、代表挨拶と代えさせていただきます。今年度も、千葉県TEACCHプログラム研究会をよろしくお願い申し上げます。



<今回のセミナー講師「岡東 歩美 先生」の関連図書>

おとなの自閉スペクトラム (金剛出版)
著者 本田 秀夫 監修
大島 郁葉 編
(岡東 歩美 ほか 共著)

令和5年度第6回連続セミナー（実践報告会）

「小学校における特別支援教育の実際と構造化」

君津市立周西小学校 加藤 由佳里 氏



小学校特別支援学級での取組について発表いただきました。事例のお子さんは、食事と時間に対して強いこだわりがあるとのことでした。食べることは好きだけでも、下校時間の変更があっても給食を食べ始める時刻を変更することが難しく、パニックになることがみられました。

このお子さんに対して、TTAP（自閉症のある人の移行アセスメントプロフィール）を用いたフォーマルな評価を行いました。直接観察、家庭、学校/事業所の三つの尺度から評価をして、お子さんの様子を適切に見取り、指導支援を検討されました。その結果、お子さんにとって分かりやすい視覚的な提示等を行うことでできることが増え、給食の開始時刻が通常と異なる日でも、落ち着いて給食準備等に取り組むことができるようになったという素晴らしい実践発表をしていただきました。

「表出言語のない我が子の成長とコミュニケーションについて」

君津地区自閉症協会 在原 あゆみ 氏

在原さんの息子さんは、1歳6か月健康診断後に、クリニックで自閉症と診断されました。診断後は水泳や親子音楽サークルに通うとともに、2歳からは児童発達支援センターに通園されました。御家庭では、絵や写真のカードを提示して手順を伝えたり、上→下、左→右の流れで課題を設定したりされました。就学前に検査入院をすることになりましたが、取り組んできた絵や写真カードの提示により、意味を理解し、無事、検査入院することができたそうです。特別支援学校中学部在学中に、走ることが得意であることに気づかれ、スペシャルオリンピックス（知的障害のある人のスポーツトレーニングとその成果を発表する競技会を開催しているスポーツ組織）の会員となりました。マラソンが大好きな息子さんは、アクアラインマラソンのハーフマラソン男子18歳の部で見事1位、22歳では館山若潮マラソンのフルマラソン完走という実績をもっています。今では、スケジュール帳を活用しながら、息子さん自身が自分のスケジュールを管理されていらっしゃるとのこと。小さいときから、親子でがんばってきた一つ一つの取組がしっかり成果として現れた素晴らしい実践発表でした。



「5年間の支援の変遷～折り合いの割り合いの変化～」

特定非営利活動法人あおぞら 海上アルファ工房

山崎 裕 氏、遠藤 直美 氏、宮崎 義成 氏



自分の要求を通すときやコミュニケーションをとる前に他者につかみかかる利用者の方への支援の実践について、発表されました。TTAPとMAS（動機づけアセスメント尺度）による評価とスキッタープロットによる行動記録、冰山モデルを使っての要因整理をし、支援会議を開かれました。「写真カードで他者に意思を伝える」「トークンを使用しながら折り合いをつける」という支援目標の基、支援を行われました。作業量の調整や作業する上での自助具の工夫、スケジュールの提示、表出のコミュニケーションカード等、「再構造化」「再々構造化」を実践されました。5年に渡る実践の中で、不適切な行動の頻度が増える年もありましたが、令和5年度には頻度が激減し、現在、落ち着いて生活されているという素晴らしい実践発表でした。

令和6年度 TEACCHプログラム研究会 第2回連続セミナーのお知らせ

期 日：7月7日（日）14：00～16：30

場 所：千葉県教育会館新館501会議室

演 題：「構造化の実際」（仮題）

講 師：五味 純子 氏（社会福祉法人大和しからし会 松風園 サービス管理者）

講師紹介：臨床心理士、公認心理師の五味先生は、以前、当会で夏に開催しておりました「2デイズ・トレーニングセミナー」で、トレーナーとして御指導いただいていたほか、横浜市の5デイズ・トレーニングセミナーのトレーナーもされていた先生です。

（編集後記）令和6年度がスタートしました。今年度の当会の連続セミナーでは、「構造化」が大きなテーマとなっています。自閉症のある人にとって、見通しのある活動や生活をするために環境を構造化することは大切です。構造化することが、いかに心理的な安定や豊かな人生につながるのか、物理的構造化や視覚的構造化、時間の構造化等、様々な場面での構造化を勉強していきたいと考えます。自閉症のある人が、この社会の中で、自分らしく幸せな人生を送ることができるように…（山中）